

自然科学技術研究科自己点検評価書

項 目	取組内容（成果、課題など）	根拠資料	
基準4 学生の受入 4-1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。 4-2 実入学者数が入学定員と比較して適正な数となっていること。	・入学者選抜の改善に繋がった取組 ・インド工科大学グワハティ校とのジョイントディグリー・プログラム(JD)を行う国際連携食品科学技術専攻の設置が認可され、同専攻の選抜基準を検討し、制定した。入学試験を実施し、日本人学生4名が合格した。 ・入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の明示および受入方法との関係 JDの入学者受入方針を案内パンフレットや自然科学技術研究科ホームページで明示するとともに入学試験を実施した。 ・適切な学生の受け入れ ・自然科学技術研究科（平成30年度入試）の入学者数(外国人留学生を含む)は492名で入学定員(375名)を満たし、入学定員の1.31倍の学生を受け入れた。 ・今後も入学者が定員の1.15倍以上になる見込みであることから、教育改善室において入学定員管理に関する検討した結果、各入試単位での入学定員管理の考え方をもとに、次年度の大学院委員会で早急に検討を進めることとした。	1.入学者選抜基準の改正 2.JD アドミッションポリシー 3.入学者選抜概況(H30)	自然科学技術研究科の取り組みを示すポンチ絵（公表用1枚）
基準5 教育内容及び方法 5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。(学士課程) 5-5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等（研究・論文指導を含む。）が整備されていること。(大学院課程)	・単位の実質化を図るための取組 「デザイン思考序論（共通科目・必修）」ではガイダンスで目的、進め方、最終提出成果等を具体的に示した。講義では理論の説明と演習課題を課し、グループで課題解決案の制作に取り組んだ。講義期間内に数時間から10時間以内に渡って課題制作に取り組み、最終講義では課題解決案を発表した。発表内容に対し学生相互および教員・学外講師による評価を行い、デザイン思考に関する筆記試験を実施した。 ・授業の方法及び内容の明示状況 ・授業概要や特色、学生のアクティブ・ラーニングを促す取組、到達目標も含め、Webシラバスに明示した。 ・インフラマネジメントリーダー育成プログラムを中心に社会人も修士課程に入学することを想定し、特別研究を特定課題研究に代えるなど社会人学生も学位を取得できるようにカリキュラムを整備した。受入学生を対象としたアンケートを実施し、社会人が学びやすい環境について検証し、教室の変更や講義内容の変更、配布資料の改善をすることとし、次年度のより良い授業環境を確保した。	4.Webシラバス Webシラバス 5.授業科目及び単位表 6.メンテナンスエキスパート養成講座アンケート結果	

基準6 学習成果 6-1 教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。 6-2 卒業（修了）後の進路状況等から判断して、学習成果が上がっていること。	・学習成果の向上に繋がった取組 学生による授業評価を行い、結果を教育改善室で検証した。デザイン思考教育については、授業評価、アンケート調査結果から受講生の98%がデザイン思考について概ね理解したことが分かった。グループの人数や時間に関する問題指摘があり、次年度の課題となった。 ・標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況（過去5年間の推移等） 平成30年度に初めての修了生を輩出し、標準修業年限内の修了率は94.1%であった。 ・卒業生（修了）、就職先等の意見聴取により、学習成果が得られていることの確認状況 修了生アンケートの設問内容等を検討し、第1回修了生に対し調査を実施した。83.4%の学生が本研究科に入学して「満足」と回答した。ディプロマ・ポリシーに掲げる3つの能力のうち、「社会のグローバル化に対応できる能力」が40.8%と低かったことから、次年度以降の課題とした。	7.デザイン思考教育実践報告書 8.標準修業年限内修了状況表 9.H30 修了時アンケート結果	
基準8 教育の内部質保証システム 8-1 【重点評価項目】教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための体制が整備され、機能していること。 8-2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、教育の質の改善・向上を図るための取組が適切に行われ、機能していること。	・教育の質の改善に繋がる取組 学生による授業評価結果から問題指摘が多かった「研究科横断科目」について、授業評価をもとに課題を抽出し、教育改善室を中心に大学院委員会で改善策を検討し、次年度から目標、開講時期、対象学生について改善することとした。 ・関係者（学生、卒業生（修了生）から教育の内部質保証についての意見を聴取する仕組みの構築状況 修了生を輩出するにあたり、修了時アンケートについて検討し、第1回修了生に対し調査を実施した。 ・自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項への対応を検討、立案、提案する組織の設置状況 平成30年7月に教育改善室を設置した。 ・自己点検・評価の結果を踏まえ、指摘事項に対する対応計画が策定され、その取組が成果をあげていること、または、取組が進捗されていることの確認状況 自然科学技術研究科運営会議の企画・立案を担う同運営会議において、取組による改善の確認を行うこととした。	10.検討資料 9.H30 修了時アンケート 11.教育改善室実施要項 教育活動ポンチ絵	

平成30年度 自然科学技術研究科の教育活動

平成29年4月 自然科学技術研究科発足

